

村田町洪水ハザードマップ

坪沼川・沢戸川洪水避難地図

洪水ハザードマップについて

この洪水ハザードマップは、宮城県が公表している一級河川名取川水系坪沼川、沢戸川において、想定し得る最大規模の降雨(坪沼川流域の24時間の総雨量734.2mm)に伴う洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深をシミュレーションにより予測した結果により作成しています。ただし、想定を超える規模の降雨、河川の越水・破堤の箇所によっては浸水想定区域や浸水深が異なることもあります。日頃から避難場所や避難経路、危険な場所についての確認を心がけてください。

菅生地区の方々へ

菅生地区の指定避難所である菅生地区公民館は洪水浸水想定区域および土砂災害警戒区域内に位置しています。洪水災害や土砂災害の危険がある場合は、早めに、村田地区の避難所または浸水想定区域に含まれていない集会所等に避難してください。
安全な施設への移動が困難な場合や避難が遅れてしまった場合には、「垂直避難」を実施し、少しでも安全性の高い場所で身を守るよう努めてください。

指定避難所・緊急避難場所一覧

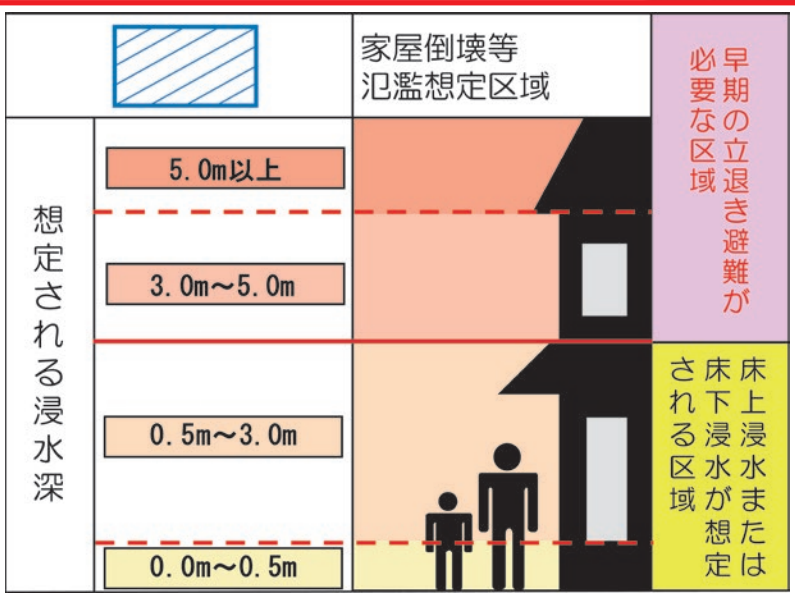
町は様々な防災情報を参考に避難所を開設します。

番号	名称	所在地	電話番号	区域内施設 土砂災害 洪水	Jアラートスピーカ の有無	AED 設置
①	菅生地区公民館	菅生字宮根59番地	83-2301	※	※	○

※は、災害の種類によっては使用制限がかかる場合があります。

緊急避難場所

番号	名称	所在地
①	細倉活性化施設交流センター	菅生字中細倉5-4
②	菅生下区生活文化センター	菅生字町西裏1
③	柳道生活文化センター	菅生字柳挽150



凡 例

指定避難所
① 条件付

緊急避難場所
① ※数字は一覧表の番号を意味します。

観測所
● 水位観測所
● 危機管理型水位計
● 雨量観測所
● CCTVカメラ

土砂災害の危険性がある範囲
■ 特別警戒区域
■ 警戒区域

浸水実績(浸水想定区域外)
■

冠水注意箇所
▲

その他の施設
■ 役場・支所



「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう。

災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です。

知っておくべき4つのポイント

- 避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- 避難先は小中学校・公民館だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- マスク・消毒液・体温計が不足しています。できるだけ自ら携帯してください。
- 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周辺の状況等を十分確認して下さい。

避難行動の種類

・立ち退き避難(安全な場所へ移動)
浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の危険な範囲から、範囲外にある安全性の高い避難所や親戚宅へ移動する避難方法です。

・垂直避難(高い場所への移動)
避難所等までの避難が困難な場合に、建物上階等の出来るだけ高い場所へ移動して危険を回避するための緊急的な避難方法です。

※上記の避難方法は、災害時の避難行動における基本的な考え方の一つです。実際の避難方法は災害の種類やお住いの環境によって異なります。日頃から自分自身が被災した際のイメージを持ち、いざという時には状況に応じて柔軟に判断し、速やかに避難行動に移ることが大切です。

非常持出品と備蓄品を準備しておきましょう

食料品等	衣類等	貴重品	日用品	安全対策	あとと便利なもの	赤ちゃん用
□飲料水(1人当たり3リットル) □乾パン □クラッカー □レトルト食品 □缶詰 □ナイフ □缶切り	□衣類 □タオル □毛布 □寝袋 □上着 □下着類	□現金(小銭) □預金通帳 □印鑑 □マイナンバーカード □防災メモ(重要書類の番号や緊急連絡先などを記したもの) □眼鏡(コンタクトレンズ)	□手袋 □ガムテープ □マッチ・ライター □ろうそく □懐中電灯 □電池 (モバイルバッテリー) □携帯ラジオ □歯磨きセット □生理用品	□ヘルメット □防災頭巾 □軍手・革手 □底の厚い靴 □救急セット □常備薬	□ウエットティッシュ □マスク □ビニール袋 □食品用ラップ □給水袋(折りたたみ式) □ポリタンクなど □携帯用浄水器 □缶 □携帯用カイロ □携帯用簡易トイレ	□哺乳びん □粉ミルク □紙おむつ □衣類 □衛生用品 □母子手帳

緊急時の連絡先

警察:110	消防:救急:119
【市外局番:0224】	
大河原警察署	村田駐在所 : 83 - 2211
大河原消防署	村田出張所 : 83 - 2408
村田町役場(災害対策本部)	総務課防災班 : 83 - 2111 (代表)

冠水注意箇所について

道路や鉄道の立体交差(アンダーパス)のように、周囲より低くなっている場所では冠水が発生しやすくなります。徒歩による避難だけではなく自動車による避難時にも注意が必要です。冠水箇所を無理に通行することは大変危険ですので安全なルートを選ぶよう心がけてください。

過去には東北自動車道と県道31号線の高架下で冠水が発生しています。菅生地区にお住まいの方は特にご注意ください。

冠水による危険性

- 冠水した道路は見た目以上に水深が深く、自動車が立ち往生したり、水没するおそれがあります。
- 水没した車両は、エンジン停止や電気系統の故障だけでなく、車両火災や感電のおそれがあります。
- 冠水した道路では、マンホールの蓋が外れていたり、側溝が隠れている場合もあり、転落やケガのおそれがあります。

